

インフォメーション・コーナー

会 告

○今年もやります！ 農業農村工学会ミニ動画コンテスト“こりゃ映像！2020” 応募締切 7月31日	74
○2020年度農業農村工学会学術基金援助希望者募集（再） 申請締切 2月14日	74
○2020年度「研究グループ」への助成希望者募集（再） 申請締切 2月14日	75
○2020年度「戦略的研究申請支援」の助成希望者募集（再） 申請締切 2月14日	75
○学会誌企画・編集委員会 学生委員の募集 応募締切 3月31日	76
○新刊「改訂6版 農業農村工学標準用語事典」の発刊	76
○学生会員入会時の特典～新刊の用語事典がセットで従来価格据置きです！～	77
○「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い	77
○学会誌掲載報文等によるCPD 通信教育の参加者募集！！	78
○2021年の学会誌表紙写真の募集 春季締切 6月30日	78
○「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！	79
○農業農村工学会誌（第80巻～第82巻）J-SATAGE 公開のお知らせ	80
○農業農村工学会論文集におけるコレスポンディングオーサーの記載	80
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2018年7月から2020年6月までの編集事務局	81
○令和元年度東京フォーラム（農村振興研修会）の開催 2月20日開催	82
○水土文化研究部会第17回研究会の開催（第2報） 参加申込締切 3月3日	82
○令和元年度農業水利研究部会研究集会の開催 3月14日開催	83
農業農村工学会論文集 内容紹介	84
農業農村工学会技術者継続教育機構認定プログラム（一般参加可）一覧	85
受入れ図書	87
学会記事	87

第88巻第3号予定

展望：凌 祥之

小特集：新規就農者の可能性とそのための課題や取組み

報文：オーストラリアにおける農業労働力調整システム：木下幸雄

報文：長野県のリング農園を事例とした新規就農者の現状と課題：甲斐貴光

報文：多様化する新規就農に対応した地域支援：遠藤和子ほか

報文：職業自己決定時代の青森県弘前市周辺の新規就農者群像：藤崎浩幸ほか

報文：高校生による山間農業地域の農地活用：岩崎 史ほか

技術リポート

北海道支部：省力的な田んぼダムの実証試験：平沢 俊ほか

東北支部：中山間地域の農地整備工事での情報化施工技術の活用事例：鈴木 満ほか

関東支部：3Dモデルを活用した現場管理：磯 裕章

京都支部：新潟らしい新技術調査検討の取組み：松尾勝則

中国四国支部：鳥取県日野川流域の少雪化傾向と春の渇水の関係：有森正浩

九州沖縄支部：掘込式逆T擁壁貯水池における鈍角隅角部たて壁の配筋要領：與那嶺 昇ほか

農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。ふるって参加くださるよう、お待ちしております。

Ⓟのマークは、技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
2020年 2月20日	全国農村振興技術 連盟・農業農村工 学会	令和元年度東京フォーラム	Ⓟ 農業農村の多面的機能の保全 対策～農村の過疎化・高齢化 と交付金活動の活性化～（令 和2年度農業農村整備関係予 算政府案の概要）	東京都	88巻2号
2020年 3月10日	水土文化研究部会	第17回研究会	Ⓟ 〈水土〉のエコノミー	東京都	88巻1, 2号
2020年 3月14日	農業水利研究部会	令和元年度研究集会	Ⓟ 農業水利研究を考える	東京都	88巻2号
2020年 8月25～28日	大会運営委員会	2020年度（第69回）農業農村工学会 大会講演会	Ⓟ —	鹿児島市	87巻12号 88巻1号

今年もやります！ 農業農村工学会ミニ動画コンテスト“こりゃ映像！2020”

農業農村工学会広報委員会では、昨年に引き続き、下記のとおり、農業農村工学を紹介する動画を広く募集します。

1. 応募締切 2020年7月31日（金）17:00
2. 動画の制限時間 60秒以内
3. 2020年度のテーマ 農業用水
4. 応募資格 なし（どなたでも応募できます）
5. 応募方法 動画をYouTubeへ指定されたタブを付けてアップロードする。
6. 審査方法 広報委員会動画ワーキングチームで審議の上、最優秀賞1作品、優秀賞2作品を決定する。
7. 賞金 最優秀賞（1作品）2万円
優秀賞（2作品）各1万円
8. アップロード方法
 - ① 動画を作成する。
 - ② YouTubeにアップロードする（9. 参考資料を参照）。
 - ③ タグに3つのワード（jsidre2020, こりゃ映像, （農業用水））を入れる。
 - ④ カテゴリに「科学と技術」を選ぶ。
 - ⑤ 下記の情報を広報委員会動画WT（new-suido@jsidre.or.jp）宛にメールで送る。

入賞賞金をお渡しするのに必要な情報（氏名、年齢、性別、所属、連絡先、YouTube動画のURL）

9. 参考資料

- ・YouTubeにPCから動画をアップロードする方法
<http://douga-tec.com/?p=4974>
- ・スマホからYouTubeに動画をアップロードするには—Android入門
<http://android.f-tools.net/Q-and-A/YouTube-Upload.html>

<参考>こりゃ映像2019 結果（テーマ：農業用水）

最優秀賞：津軽を潤す農業用水

弘前大学 森田七海

<https://www.youtube.com/watch?v=F1o4-UXFjG4&feature=share>

優秀賞：3匹のこぶたで学ぶ農業用水

農研機構農村工学研究部門 新村麻実

<https://youtu.be/ByN1E1X1szQ>

優秀賞：奄美群島 沖永良部島

studio GHIKLI

<https://www.youtube.com/watch?v=YkaRDwJdESI>

2020年度農業農村工学会学術基金援助希望者募集（再）

農業農村工学会では、平成3年度に学術基金制度を設け、毎年援助事業を実施しております。

2020年度は、規程第4条(1)の「特定の分野及び学術的分野に関する調査・研究の推進」、(2)の「農業農村工学の国際交流の推進」、(3)の「若手研究者の育成」の援助を実施いたします。

援助を希望される方は、学会ホームページ（<http://www.jsidre.or.jp/format/>）より申請書をダウンロードして、E-mailで学会事務局あてにお申し込みください。

記

1. 援助の対象

農業農村工学会の会員（学生会員を含む）、または会員により構成されるグループで代表者は論文集またはPWE誌の購読者（援助決定後の購読も可）

2. 援助方針

- (1) 農業農村工学に関する特定の分野および学術的分野の調査・研究の推進に寄与すると思われる研究について援助する。

(2) 2020 年度中 (2020 年 4 月から 2021 年 3 月) に海外で開催される国際学術会議への出席費用の一部を援助する。なお、自ら研究発表等を行う若手会員とする。

ただし、発表が国際会議の主催者から受理されていなくても、申請は受け付ける。

この場合、援助の可否については受理を条件として決定を行う。

(3) 若手研究者の研究に対して援助する。

3. 1 件当たりの援助金の目安

1 件 15 万円程度とする。

4. 申請締切 2020 年 2 月 14 日 (金)

5. 報告の義務

援助を受けた者は、調査・研究、または会議の報告書を提出する。その原稿は学会誌に掲載します。

また、得られた成果を論文集または PWE 誌に積極的に投稿すること。

6. 申込み・問合せ

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4 農業土木会館 3 階

(公社)農業農村工学会 学術基金運営委員会

TEL : 03-3436-3418 FAX : 03-3435-8494

E-mail : new-suido@jsidre.or.jp

7. その他

助成金は 2020 年 4 月に送金します。

2020 年度「研究グループ」への助成希望者募集 (再)

「研究グループ」の育成を目的とし、下記取扱い内規によって研究助成を行います。

助成金額は原則 1 件 20 万円程度、3 件程度です。

2020 年度の申請締切は、2020 年 2 月 14 日 (金) です。助成金を希望される方は期限までに、所定の様式 (<http://www.jsidre.or.jp/format/>) で研究委員会委員長あてにお申し込みください。

試験研究機関、行政、大学、民間等からの応募を歓迎いたします。

「研究グループ」への助成金取扱い内規

1. 申請：学会員は所定の申請用紙に必要な事項を記入の上、「研究グループ」への助成金の申請ができる。なお、申請者の資格は、後述の「4. 助成対象」に示すとおりとする。
2. 認定：研究委員会は助成金申請のあった「研究グループ」につき、その可否を認定し、学会長に報告する。
3. 助成：研究委員会は認定した「研究グループ」に対し、「研究連絡費」を助成する。ただし、その助成は原則として 1 年とする。
4. 助成対象：申請できる条件 (助成対象) は次のとおりとする。
 - (イ) 具体的な研究テーマをもち、しかもその研究分野が現在立ち遅れており、それを研究することが学会の研究活動の発展に対して新しい芽

なりうること。

(ロ) 「研究グループ」の構成は本学会員を主とし、構成員は自らその研究に携わる分担者であること。

(ハ) 「研究グループ」には代表者 (本学会員) をおき、構成員は原則として 3 名以上、それらの所属する機関が 2 つ以上あること。

(ニ) 「研究グループ」のすべての構成員の年齢は、助成金申請締切日に 40 歳未満であること。

(ホ) 代表者は論文集または PWE 誌の購読者 (援助決定後の購読も可) であること。

5. 活動報告：助成金を受領した「研究グループ」は助成金受領後 1 年以内に活動報告を下記注意書き事項に留意し作成し、研究委員会に提出すること。

注 1) 研究経過報告書の執筆に当たり、農業農村工学会誌原稿執筆の手引きを参考とし、学会誌刷上がり 1~2 ページに収まるようにまとめること。

注 2) 「研究グループ」からの研究経過報告は研究委員会で承認の上、学会誌に掲載する。

また、得られた成果を論文集または PWE 誌に積極的に投稿すること。

6. その他：申告書の内容について、研究委員会で審議した内容を採否通知に同封します。なお、助成金は 2020 年 4 月に送金します。

2020 年度「戦略的研究申請支援」の助成希望者募集 (再)

農業農村工学分野における戦略的研究の推進を目的とし、下記取扱い内規によって、農業農村工学分野における戦略的研究の推進を目的とし、大型科研費 (S または A) や JST、各省庁のファンディング等の比較的大きな規模の競争的資金の獲得を目指す研究グループに対して助成を行います。助成額は、50

万円 (1 件) です。

2020 年度の申請締切は 2020 年 2 月 14 日 (金) です。助成金を希望される方は期限までに、必要事項を記入した申請様式 (末尾参照) で研究委員会戦略的研究推進小委員会委員長あてにお申し込みください。

試験研究機関、行政、大学、民間等からの応募を歓迎いたします。

「戦略的研究申請支援」の助成金取扱い内規

1. 申請：学会員は所定の申請用紙に必要事項を記入の上、「戦略的研究申請支援」の助成金の申請ができる。なお、申請者の資格は、後述の「4. 助成対象」に示すとおりとする。
2. 認定：研究委員会戦略的研究推進小委員会は、「研究申請書作成グループ」の申請内容（申請の意義、準備の状況、将来の展望など）を検討して、助成するグループを決定する。なお、この決定内容は学会長に報告する。
3. 助成：研究委員会戦略的研究推進小委員会は認定した「研究申請書作成グループ」に対し、「研究連絡費」を助成する。ただし、その助成は原則として1年とする。可否の認定に当たっては、科学研究費補助金以外の競争的資金に応募を予定しているグループを優先する。
4. 助成対象：申請できる条件(助成対象)は次のとおりとする。
 - (イ) 具体的な研究テーマをもち、それを研究することが戦略的な意味で農業農村工学の意義と役割を対外的に示すことに貢献しうること。
 - (ロ) 「研究申請書作成グループ」には代表者（本学会員）をおき、構成員（本学会員以外も可）は原則として3名以上、それらの所属する機関が2つ以上あること。

(ハ) 代表者は論文集またはPWE誌の購読者（援助決定後の購読も可）であること。

5. 活動報告：助成金を受領した「研究申請書作成グループ」は、助成金受領後1年以内に活動報告として、作成した申請書とその提出および審査の経過を、戦略的研究推進小委員会に提出すること。提出された活動報告は戦略的研究推進小委員会のデータベースに登録され、必要に応じて学会の研究申請支援活動に役立てられる。

また、得られた成果を論文集またはPWE誌に積極的に投稿すること。
6. その他：申告書の内容について、研究委員会で審議した内容を採否通知に同封します。なお、助成金は2020年4月に送金します。

「戦略的研究申請支援」の助成金申請様式

締切：2020年2月14日（金）

申込先：研究委員会戦略的研究推進小委員会委員長あて
E-mail：new-suido@jsidre.or.jp

必要記載事項：

- (1) WG名（または部会名）
- (2) 代表者名・所属
- (3) 参画者名・所属
- (4) 研究テーマ名（仮）
- (5) 研究の目的と内容（500字程度）
- (6) 研究資金申請応募先（予定）

学会誌企画・編集委員会 学生委員の募集

学会誌企画・編集委員会では、学生向けの企画などを担当していただく学生委員を募集いたします。

募集要領は次のとおりです。ふるってご応募ください。

1. 応募資格

- (1) 学生会員であること（応募時に入会も可）
- (2) 年3回程度開催の委員会（東京都港区新橋にて開催）に出席できること（旅費を支給します）
- (3) E-mail、Webが使える環境にあること
- (4) 指導教官の承認を得ること

2. 任期 2020年4月から最長で2年。卒業、就職等で途中退任も可

3. 募集人数 2名

4. 応募締切 2020年3月31日（火）

5. 応募方法

下記①～⑦を記入の上、henshu@jsidre.or.jpまでメールでお送りください。

- ①会員番号、②氏名、③大学名、④2020年4月からの学年、⑤年齢、⑥承認を得た指導教官名、⑦連絡先メールアドレス

6. 問合せ

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

(公社)農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会

TEL：03-3436-3418 FAX：03-3435-8494

E-mail：henshu@jsidre.or.jp

新刊「改訂6版 農業農村工学標準用語事典」の発刊

農業農村工学会では、創立90周年の記念事業として、「改訂6版 農業農村工学標準用語事典」を2019年8月27日に出版いたしました。

	会員価格	非会員価格
定 価	3,700円+税	4,500円+税

図書の購入方法

I. 個人・法人の場合（賛助会員を除く）

以下のいずれかによる代金先払いをお願いします。または代金引換をご利用ください。

- ① 郵便振替：郵便局の払込取扱票の通信欄に図書名・冊数・送付先・担当者名・連絡先をご記入ください。
振込口座番号：00160-8-47993 加入者名：公益社団法人 農業農村工学会
- ② 現金書留：図書名・冊数・送付先・担当者名・連絡先を記載した注文書を同封してください。
- ③ 代金引換：図書名・冊数・送付先・担当者名・連絡先

を記載した注文書に「代引希望」と書き添えて E-mail か FAX でお送りください。別途、代引手数料と送料の実費がかかりますので担当者からご連絡いたします。

II. 官公庁の公費購入および賛助会員の場合

図書名・冊数・送付先・担当者名・連絡先を記載した注文書を E-mail か FAX でお送りください。

III. 送料

1冊 200円, 2冊 400円, 3冊以上 600円

問合せ先 (公社)農業農村工学会 図書係

E-mail : suido@jsidre.or.jp

学生会員入会時の特典

～新刊の用語事典がセットで従来価格据置きです！～

農業農村工学会では、将来を担う若い方達が早くから学会活動に参加することを通じて、よりよく社会に貢献できる環境づくりを目指しています。その一環として、学生の方々が少しでも入会しやすいように、学生会員入会特典を設けております。

これから学生会員として入会をお考えの学生の皆様、是非ご利用ください。

①ハンドブック3点セット

(ハンドブック+用語事典+初年度会費)

学部生 17,000円 (15,750円)

大学院生 19,500円 (16,750円)

②必携3点セット

(必携+用語事典+初年度会費)

学部生 7,000円 (5,750円)

大学院生 10,000円 (7,250円)

③2点セット

(用語事典+初年度会費)

学部生 5,000円 (3,750円)

大学院生 8,000円 (5,250円)

()内の金額は、10月1日以降(半期)入会の場合。

なお、用語事典を購入した方のうち希望者には、用語事典の内容をスマートフォンなどで閲覧可能なサービスを後日提供する予定です。

ハンドブック：改訂七版農業農村工学ハンドブック

必携：資格試験のための農業農村工学必携(第二版)

用語事典：改訂6版 農業農村工学標準用語事典

問合せ先 (公社)農業農村工学会 図書係

E-mail : suido@jsidre.or.jp

「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い

農業農村工学会は、農業農村工学の学術・技術の発展を通じて、わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし、昨今の日本農業はかつてない厳しい環境におかれ、農業農村工学の役割も従来に増して一層重要なものとなり、東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっています。

そのためには、若い世代の育成、新たな技術の開発や国際交流の進展が図られなければなりません。学会は、これら諸活動に資するものとして、平成3年4月に学術基金を創設し、これに上野賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し、さらに法人・個人有志からの拠出金等をもってこの基金に充てることとしております。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

なお、この学術基金は今後、学生会員のインターンシップの助成にも対象を拡げる予定です。

個人会員一口 5,000円 (何口でも可)

法人会員一口 50,000円 (何口でも可)

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名 (社)農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集 !!

農業農村工学会では、学会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者の方が CPD 単位を在宅のまま取得できる方法として、平成 17 年 10 号から農業農村工学会誌「水土の知」誌上で「CPD 通信教育」を実施しています。学会員であり、かつ CPD 個人登録者は、どなたでも無料で参加することができ、通信教育分【ac】として年間最大 24 cpd を取得する大きなチャンスとなっています。この機会に、是非 CPD 通信教育へご参加ください。

なお、解答内容については技術者倫理に則り、自らの責任で送信してください。

1. 参加資格

農業農村工学会の個人会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者

2. 出題内容と出題方法

3 カ月前に発行された農業農村工学会誌に掲載された報文等

の事的内容から、択一式で毎月 10 問を出題

3. 解答方法

Web 画面に正解と思う番号を入力し、送信（事前に Web 利用登録が必要）

4. 解答期限

問題掲載月の月から翌月末日まで

（例：学会誌 2 号掲載の問題は 3 月末日が解答期限）

5. 取得できる CPD 単位

10 問正解で 2 cpd を、7~9 問正解で 1.5 cpd を自動登録（正解数 6 問以下の場合は CPD 単位の付与はされません）

6. 自動登録の時期

取得した CPD 単位は、解答期限最終日の翌月初旬に自動登録されます。

2021 年の学会誌表紙写真の募集

学会誌企画・編集委員会では、2021 年発行の学会誌も引き続いて学会員の皆さまからの写真などを基本に表紙を飾ることとします。以下の趣旨を参考に魅力ある写真などをふるってご応募ください。

趣 旨

現代に入り農業の近代化のために、農業農村工学の粋を集めた多くの農業（水利）施設が造成され、農業や農村の基盤を支えています。そして、近年、それらも更新や機能保全を重ね施設の様態も変化してきています。さらに、日本の農業農村工学の成果は技術移転により、海外の多くの国々で現地適用され、それらの国々の食料供給と農業生産の基盤を支えています。農業農村の現場で活躍される技術者、現場での調査研究に邁進されている研究者・学生の皆さま、国内外の農村地域における農業施設・構造物、特に新たに完成した施設や施工中の現場事例および国外においては日本の関連技術が適用された事例などの匠（造形美、用の美、融合の美）とそれを含む景観を広く学会員にご紹介ください。

記

1. テーマ

「農業（水利）施設・構造物とそれらに支えられた農地・地域の景観など：現代の最新技術と苦勞が垣間見える造形美・用の美など」

2. 対象巻号 学会誌第 89 巻（2021 年第 1~12 号）

3. 写真などの種類

応募写真はデジタル、フィルムを問わず六つ切り以上四つ切り以下のサイズにプリントしたものとします。プリントは「写

真用紙—フォトペーパー—滑面タイプ」を使用してください。

四つ切りワイド、A4 サイズも含まれます。なお、六つ切りは 203×254 mm、四つ切りは 254×305 mm、同ワイドは 254×356 mm、A4 は 210×297 mm です。カラー、モノクロは問いません。採用となった写真についてはデジタル写真の場合に限り画像データを送っていただきます。一点につき 5 MB 以下とし、これを超えるものは CD または DVD にて送ってください。形式は JPEG のみに限定します。

4. 枚数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

5. 締切 春季 2020 年 6 月 30 日

夏季 2020 年 9 月 30 日

※応募時、過去 1 年以内に撮影したものに限りません。

6. 審査 審査委員会（編集委員と写真家）で選考します。

7. 結果発表

学会誌第 89 巻第 1 号で採用作品と掲載号を発表し、採用作品は 2021 年度大会講演会会場内でパネル展示します。

8. 被写体の説明文または「Cover History（表紙写真由来）」の執筆および写真使用料について

採用作品の応募者には、被写体の説明文（500 字程度）をご執筆いただきます。また、ご希望の応募者には、撮影の動機、被写体にひかれた点、被写体の説明などを、学会誌掲載の「Cover History（表紙写真由来）」にご執筆いただくことができます。ご執筆の詳細は、採用決定時に応募者に直接お知らせします。また、採用作品には規定の写真使用料（1 点につき 1

万円)をお支払いします。なお、すべての応募作品が不採用となった応募者には記念品をお送りします。

9. 使用権・著作権

採用作品の使用権および著作権は(公社)農業農村工学会に属します。

10. 注意点

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、農業施設・構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれること(花などの情緒物に埋没しないこと)が採用の条件となります。

また、被写体の肖像権や権利関係については許可等、十分ご注意ください。

11. 応募方法および応募先

学会ホームページより、応募票をダウンロードし、タイトル、郵便番号、住所、氏名、勤務先、電話番号、E-mail アドレス、写真のテーマ、撮影場所、撮影年月日、対象物の固有名称(固有名詞)、対象物をめぐる歴史的背景等の説明を記入し、応募写真の裏面に貼付してお送りください。

なお、原則として、応募写真は返却いたしません。

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

(公社)農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会「表紙写真公募」係

TEL: 03-3436-3418 FAX: 03-3435-8494

E-mail: henshu@jsidre.or.jp

「水土の知(農業農村工学会誌)」への投稿お待ちしております!

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページ(<http://www.jsidre.or.jp/>)

journal/)に掲載の「農業農村工学会誌投稿要項」,「農業農村工学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿ください。

学会誌第88巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ	要 旨 締 切 (A4判 1,500字以内)
第88巻第3号 新規就農者の可能性とそのための課題や取組み(仮)	終了
4号 農業農村工学分野におけるJABEE認定プログラムの持続可能性と課題(仮)	終了
5号 Society 5.0に向かう農業農村工学(仮)	終了
6号 農業水利施設の補修工法選定上の課題(仮)	終了
7号 大会特集号(九州沖縄支部)	公募なし
8号 「多様な主体が住み続けられる農村」の振興(仮)	3月10日
9号 農業用ため池の持続的な保全管理手法(仮)	4月10日
10号 高品質化・高収益化のための水管理・灌漑技術(仮)	4月20日

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌企画・編集委員会あてにお寄せください。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがございます。

送付先 〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4
(公社)農業農村工学会
農業農村工学会誌企画・編集委員会あて
TEL: 03-3436-3418 FAX: 03-3435-8494
E-mail: henshu@jsidre.or.jp

採用された原稿の分量は、刷上り4ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守いただきますよう、お願いいたします。

第88巻第8号テーマ『「多様な主体が住み続けられる農村」の振興』(仮)

多様な主体が住み続けられる農村社会の構築が求められています。そのために一つには、農村に住むための基礎的条件、さらに、住みたくなる条件の整備を進めていくことが必要です。あと一つには、地域資源を適切に保全管理しながら、同時に持続可能な形で最大限活用し、農業・農村の多様性を活かした農村振興を図ることが必要です(食料・農業・農村政策審議会農業農村振興整備部会の第1回(令和元年6月24日)の配付資料「農業農村整備の新たなフロンティア—新しい時代が到来する中での農業農村整備の課題整理—」)。

連携した地域づくり」として、中山間地域における特産品の産地形成や、営農体制の確立と企業誘致などが挙げられます。また、「担い手以外の者が引き続き住み続けるための方策」として、集落営農による全員参加型の地域農業なども挙げられます(平成30年度水土文化研究部会研究会、石井克欣農林水産省農村振興局計画調整室長資料)。

具体的には、たとえば「条件不利地域における多様な主体が

本小特集では、「多様な主体が住み続けられる農村」の振興に関する事例を通して今後を展望する報文を広く会員の皆様から募集いたします。

第88巻第9号テーマ「農業用ため池の持続的な保全管理手法」(仮)

農業用ため池について農業農村工学分野では、長年、老朽化対策、耐震性、維持管理、ハザードマップから、多面的機能や生態系まで、広範囲に研究と技術の対象にしてきました。

しかし、近年の大型で強い台風による豪雨や大規模地震により被災が多発するとともに、人命にも影響を及ぼす事象が発生しています。このような状況から、先に政府では、全国のため池の緊急点検を実施し、2019年4月にはため池の適切な管理および保全を目的とした「農業用ため池の管理及び保全に関する法律」(ため池新法)を公布し、2019年7月に施行しました。

ため池は、現在全国に16万7千カ所分布し、その管理も多

くは水利組合や集落など地域に委ねられており、農家の減少や高齢化を背景とする保全管理の体制の脆弱化、さらには廃止を含む検討が必要なため池の存在など、多くの困難な課題を抱えているのが現状です。

このため、これまでの知見や技術を結集し、ため池の持続的な保全管理を技術面から担うことが求められています。

そこで本小特集では、これまでのため池に関する知見や技術をレビュー、整理し、これらを社会に広く発信するとともに、今後必要とされる研究や技術開発素材に関する事項について、幅広い方々からの報文を募集します。

第88巻第10号テーマ「高品質化・高収益化のための水管理・灌漑技術」(仮)

農家の減少が続く中、平成30年末にTPP11も発効するなど、競争力の高い農業が求められる状況はますます強まっています。収益性を高め競争力を強化するためには、高く評価されるための作物の高品質化、およびブランドを確立するなどマーケットの信頼を獲得するための品質の安定化が必要です。食料・農業・農村基本計画や土地改良長期計画でも、消費者ニーズに依って収益性を向上し、また、輸出量を増加するためにも高品質化の必要性が謳われています。

作物の品質を決める要素は食味に限らず、外観、栄養価や機能性成分含有量などもあります。これらの要素に、作物の生育過程での水分状態が大きく影響します。また、水田では水温も稲の生育に大きく影響します。そのため、作物の高品質化のた

めには、適切に土壌や作物の水分、および水温を制御する水管理・灌漑技術などが重要となります。

作物の水分状態や水田の水温と作物品質の関係は生理的なメカニズムにより決まるものですが、目標とする水分状態や水温を実現するには、灌漑や排水による土壌水分や水温の適切な制御が必要です。そのような制御には、従来の補給灌漑を前提とした技術では適切な対応が難しく、需要主導水管理、少量多頻度灌漑や土壌水分の精緻な把握など、高度な技術の発展も必要です。昨今のICTの進歩はそれらに大きく寄与するでしょう。

本特集では、作物品質の高度化・安定化による高収益化に寄与する水管理・灌漑技術などについて、実践や研究・開発の事例、また、技術の開発・向上に有用な知見などを広く募集します。

農業農村工学会誌 (第80巻～第82巻) J-STAGE 公開のお知らせ

本学会の学会誌第1巻第1号～第79巻第12号は、すでに、国立研究開発法人科学技術振興機構 (JST) で運用しているJ-STAGEで公開されています。新たに、2020年1月10日から、学会誌第80巻第1号～第82巻第12号が公開されましたのでお知らせいたします。有効活用いただくようお願い申し上げます。

下記、URLよりご覧ください。

・農業農村工学会誌 (75巻7号～82巻12号)

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jjsidre2007/-char/ja>

・農業土木学会誌 (33巻1号～75巻6号)

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jjsidre1965/-char/ja>

・農業土木研究 (1巻1号～32巻8号)

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jjsidre1929/-char/ja>

なお、学会誌第83巻以降は、前月発行分までのものが学会ホームページの会員専用サイト (<https://member.jssidre.or.jp/>) で閲覧することができます。会員専用サイトでの閲覧にはログインが必要ですので、パスワードをお持ちでない方は、会員専用サイトでWEB利用登録の申込みをしてください。

農業農村工学会論文集におけるコレスポンディングオーサーの記載

農業農村工学会論文集は、現在コレスポンディングオーサーを記載するシステムになっております。投稿される皆様に改めてご案内申し上げます。農業農村工学会論文集投稿の手引き(平成27年3月16日改正:第236回理事会報告)の「6.2 投稿手順」に「@追加投稿情報(会員番号、コレスポンディングオーサー等)の入力」の記載があります。

また、投稿システムの著者マニュアル(Ver.15.0～、2018年7月改訂)に「3-6 追加登録情報を入力する」がありますのでご確認ください。さらに、論文集の完全版下原稿(邦文)の作成例Ver.5などにも記載例が示されていますので、併せてご確認ください(学会ホームページ http://www.jssidre.or.jp/how_to_post/ からダウンロードできます)。

なお、掲載済みの論文に遡って、コレスポンディングオーサーの証明を必要とされる方は、農業農村工学会論文集企画・

編集委員会 (E-mail: ronbun@jsidre.or.jp) まで、ご連絡ください。

**国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと
2018年7月から2020年6月までの編集事務局**

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering: PAWEES) では、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を発行しています。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されていますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。また、2017年のインパクトファクター (IF) は過去最高の1.379となり、国際ジャーナル誌としての位置づけがますます向上しています。

水田農業における土地、水、施設および環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としており、掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑 (水配分管理, 水収支, 灌漑施設, 栽培管理)
- ② 排水 (排水管理, 排水施設)
- ③ 土壌保全 (土壌改良, 土壌物理)
- ④ 水資源保全 (水源開発, 水文)
- ⑤ 水田の多面的機能 (洪水調節, 地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全 (水生, 陸生動植物の生態系)
- ⑦ 水利施設と減災・防災 (施設管理, 地すべり, 気候変動, 災害防止など)
- ⑧ 地域計画 (農村計画, 土地利用計画など)
- ⑨ バイオ環境システム (水田農業と水環境, 土壌環境, 気象環境)
- ⑩ 水田の多目的利用 (田畑転換, 施設園芸)
- ⑪ 農業政策 (農村振興, 条件不利地の支援策など)

また、世界11カ国からEditor (19名) を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名なSpringer社からの刊行です。掲載論文は、Review, Article, Technical Report および Short Communication の4種類です。

一方、2018年7月から、新たな編集体制をスタートさせました。詳細は以下のとおりです。

編集体制

- ・ **Editor-in-Chief** : Dr. Takao MASUMOTO (Japan)
Faculty of Bioresource Science, Akita Prefectural University, Akita, Japan
- ・ **Associate Editors-in-Chief**
Dr. Seong-Joon Kim
Konkuk University, Korea
Dr. Chen-Wuing Liu
National Taiwan University, Taiwan, ROC

- ・ **Editors** 11カ国から19名
- ・ **Editorial Advisors** 29名
- ・ **Chief Managing Editor**
Dr. Kimihito NAKAMURA
Graduate School of Agriculture, Kyoto University, Japan
- ・ **Managing Editors**
Dr. Eunmi Hong
Kangwon National University, Korea
Dr. Inhong SONG
Department of Landscape Architecture and Rural Systems Engineering, Seoul National University, Korea
Dr. Chihhao FAN
Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Rep. of China
Dr. Kuo-Wei LIAO
Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Rep. of China
Dr. Hiroshi IKEURA
Rural Development Division, Japan International Research Center for Agricultural Science (JIRCAS), Japan
Dr. Andrew WHITAKER
Graduate School of Science and Technology, Niigata University, Japan

編集事務局 (2018年7月から2020年6月まで)

- ・ **Dr. Kimihito NAKAMURA**
Graduate School of Agriculture, Kyoto University, Japan
Oiwake-cho, Kitashirakawa, Sakyo-ku, Kyoto 606-8502, JAPAN
TEL : + 81-75-753-6156
FAX : + 81-75-753-6476
E-mail : nakamura@kais.kyoto-u.ac.jp

投稿先 : オンライン投稿 (<http://pawe.edmgr.com/>) になります。

投稿資格 : 筆者が農業農村工学会員でPWE誌の購読者であること。

投稿要領等 : <http://pawe.edmgr.com/> に詳細を記載しています。

発行スケジュール : 年4回 (オンラインジャーナル)

購読料 : 正会員・名誉会員 9,000円+税
学生会員 (院生含む) 4,500円+税

非会員の方は購読できません。購読を希望される方は、まず

農業農村工学会にご入会の上、お申し込みください。

なお、オンラインジャーナルへの完全移行に伴い、2016年度からの購読はパスワードによる Web 上での閲覧になっています。

す。冊子体の配布はありません。

申込先：農業農村工学会事務局 (suido@jsidre.or.jp) まで会員登録番号を明記の上、お申し込みください。

令和元年度東京フォーラム（農村振興研修会）の開催

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



令和2年度農業農村整備関係予算の政府原案が決定され、その重点事項として「農山漁村の活性化」があげられ、農泊などの所得向上を通じた農村振興とあわせて、日本型直接支払などの施策が盛り込まれています。農村地域の多面的機能の維持・発揮や担い手を支えるための地域活動などを目的とした「多面的機能支払交付金」については、その効果が評価されているものの、活動を支える地域住民の減少、高齢化等により交付金活動の継続が厳しい地域がみられる状況になっています。今回の東京フォーラムでは、厳しい状況の中で活動を継続されている組織の課題と工夫、1市1協定という組織の広域化を早くから進めることにより活動を活性化している新潟県見附市の事例を紹介するとともに、地域の保全と活性化を進めるにあたっての課題と提言を、行政を交えたパネルディスカッションにより、参加者の方々と情報を共有することとしています。また、令和2年度農業農村整備関係予算政府案については、農林水産省の担当官より情報提供いただくことといたしました。

会員をはじめ皆様のご参加をお待ちしています。

- 主催** 全国農村振興技術連盟
(公社)農業農村工学会
- テーマ** 農業農村の多面的機能の保全対策
～農村の過疎化・高齢化と交付金活動の活性化～
(令和2年度農業農村整備関係予算政府案の概要)
- 開催日** 令和2年2月20日(木) 9:50～16:50
受付は9:15から行います。
- 場所** 東京都千代田区北の丸公園 2-1
科学技術館 地下2階 サイエンスホール
TEL: 03-3212-8485
- プログラム**
9:50～10:30 開会挨拶／表彰式(梶木賞・広報大賞)
全国農村振興技術連盟委員長 林田直樹

(公社)農業農村工学会副会長 山路永司

10:30～11:30 1. 講演

「農山村の保全と活性化」(仮題)

東京農業大学地域環境科学部教授 藤川智紀

11:30～12:30 2. 講演

「広域化による多面的機能支払活動の活性化」(仮題)

(一社)農村振興センターみつげ事務局長 (新潟県)

椿 一雅

12:30～13:30 (昼食・休憩)

13:30～14:20 3. 講演

「中山間地域の農村集落の保全と課題」(仮題)

浅野美しい村づくり活動組織代表 (兵庫県) 藤本忠義

14:20～16:00 4. パネルディスカッション

「高齢化した農村地域の多面的機能保全対策への提言」

パネラー：講師、農林水産省

コーディネーター：NPO 法人 TEAM 田援代表 筒井義富

16:00～16:10 (休憩)

16:10～16:50 5. 講演

「令和2年度農業農村整備関係予算政府案の概要」

農林水産省農村振興局設計課技術調査官 石川英一

(講師およびテーマに変更がある場合があります)

6. **参加費** 8,000円(昼食代は含まず。参加費は当日会場で申し受けます)

7. **申込み・問合せ先**

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

全国農村振興技術連盟

TEL: 03-3434-5407 FAX: 03-3578-7176

E-mail: kensyu@n-renmei.jp

申込方法等の詳細は全国農村振興技術連盟ホームページ (<http://www.n-renmei.jp/>) をご覧ください。

水土文化研究部会第17回研究会の開催(第2報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



“〈水〉と〈土〉と〈人〉の複合系”である〈水土〉は、農業を基軸とするも、経済行為にとどまらない多彩な事象に満ちている。〈水土〉をいかに見極めるか、それは来し方・行く末を展望する上での基本であり、かつ永遠の課題である。

モノとサービスの挙動を捉えるツールとしての経済学は、「合理性」を基本概念とし分析手法を多様化・精緻化させつつ、純粋な経済的事象にとどまらず、事象を支えるヒトにも焦点を

合わせ、その行動や規範、組織・制度、つながりなど社会の枠組みにまで〈知〉の領域を拡大してきた。他方、近年の自然環境の劣化や所得格差の拡大などを背景に、ツールの意味を問い返すような動きも出てきている。

〈水土〉を維持・育成する農業農村整備についての計量経済分析に長年携わり斬新な知見をもたらしてこられた第一人者とともに、最新の経済学的アプローチから何が見えてくるかを中心

に、さまざまな視点から〈水土〉の捉え方について議論したい。

1. テーマ 〈水土〉のエコノミー
2. 日 時 令和2年3月10日(火) 13:30~16:30
3. 場 所 農業土木会館 2階 A会議室
〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4
TEL: 03-3434-0461

4. プログラム

講演「EBPMに向けた農業施策の経済評価—マクロ実証分析の立場から—」

農研機構農村工学研究部門 國光洋二

コメンテーター: NTC コンサルタンツ(株) 中田摂子

パネルディスカッション: 講演者+コメンテーター

コーディネーター: 水土文化研究部会 広瀬 伸

5. 参加料 無料

6. 申込み・問合せ先

〒305-8609 茨城県つくば市観音台2-1-6
(国開)農業・食品産業技術総合研究機構 農村工学研究部門
地域資源工学研究領域 地域エネルギーユニット
ユニット長 後藤真宏
TEL: 029-838-7548 FAX: 029-838-7609
E-mail: griese@affrc.go.jp

7. 参加申込要領

整理の都合上、3月3日(火)までに以下の要領にてお申し込みください。

氏 名	(CPD 番号)
所属機関	
所在地	
電話番号	
FAX 番号	

*部会員以外の方も参加できます。

令和元年度農業水利研究部会研究集会の開催

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



農業水利研究部会では、令和元年度農業水利研究部会研究集会を下記のとおり開催いたします。皆様のご参加をお待ちしております。

1. 期日 令和2年3月14日(土) 14:00~16:00
2. 場所 東京農業大学世田谷キャンパス
1号館3階 311教室
東京都世田谷区桜丘1-1-1
最寄駅: 小田急線経堂駅下車 徒歩15分

3. テーマ 農業水利研究を考える

4. 題目および講演者

平成における農業水利研究の動向 (仮)

宇都宮大学 松井宏之

※農業水利研究に関する討論(話題提供いただける方は、下記までお申し出ください)

5. 参加費 無料

6. 参加申込みおよび問合せ先

農業水利研究部会事務局
〒321-8505 栃木県宇都宮市峰町350
宇都宮大学農学部農業環境工学科 松井宏之
TEL&FAX: 028-649-8638
E-mail: matsuih@cc.utsunomiya-u.ac.jp